

事例5 中学校のOJT実践事例

授業研究会の工夫で、教科や学年の枠を超えて学び合える関係を目指す
【研究主任・学習指導主任として】

中学校は、学年や教科、部活動などで様々な教員同士の関わりがあり、連携や協力の重要性を感じている。また、最近では、授業等に不安や悩みを感じている若手教員も増えている。

今年度は研究主任を任せられ、子どもの学びを支援していくためには、教員一人一人の授業改善だけでなく、教員同士で学び合い、高め合うことが必要だと感じている。そこで、授業研究会を核とした様々な取組の工夫を行う中で、教科や学年の枠を超えて学び合える教員集団を目指したいと考えた。

〈取組の内容〉

○「研究だより」の発行

授業研究会の目的を明確にしたり、協力の依頼をしたり、今後の予定を示したりするために、「研究だより」を発行した。授業研究会の様子や参加した先生方の振り返りも掲載して、身近で即時的な内容を発信した。

○授業を協働してつくる「プチ授業検討会」の実施

多くの教員に「自分ごと」として授業研究会に関わってもらうために、模擬授業形式の「プチ授業検討会」を実施した。有志による参加とし、放課後に20分以内で行うことで、負担感を少なくした。

○職員会議での「プレゼンテーション」の実施

職員会議の最後の10分間に、授業研究会についての連絡や授業後の振り返りを伝える時間を設けた。授業研究会に関わった教員だけの学びにせず、全教員で共有できるようにした。

○少人数による「プチビデオリフレクション」の実施

普段の授業の子どもの姿をビデオに撮り、子どもの学びの事実について語り合う「プチビデオリフレクション」を行った。学年や教科の先生方が授業についての話合いが気軽にできるよう、放課後に15分以内の短時間で雑談的にできるものとした。

これが成功の鍵！

③教員同士が交流しやすい場面をつくる

先生方が「楽しく」学べる環境づくりを、一番考えました。そこで、職員会議前に教職員でエンカウンターを行ったり、プチビデオリフレクションでは注目したい場面を意図的に提示したりして、楽しい交流のための工夫をしました。

④伝える工夫をする

研究だより、職員会議でのプレゼンテーション、プチビデオリフレクションなどで「見える化」を図り、学びやすい工夫をしました。

【若手教員の声】

他教科の授業で見られる生徒の姿や表情などを知り、いろいろな発見がありました。おかげで、職員室で先生方との会話が増えました。教科を超えて語り合う機会は重要だと感じました。

【先輩教員の声】

ビデオで授業を見ることで、子どもへの関わり方が共有できました。みんなで授業について語ることで、自分になかった視点に気付くことができ、私自身も成長できました。



プチビデオリフレクションの様子

〈取組の成果〉

- ・プチ授業研究会やプチビデオリフレクションを通して、若手教員の授業力だけでなく、教員一人一人の授業力が向上した。
- ・若手教員が、同じ学年、教科にとどまらず、様々な教員から学ぶ姿が見られるようになった。
- ・話合いの場を短時間で設定したことで、「もっと話し合いたい」という思いから、職員室内で自発的に授業について語り合う姿が見られるようになった。